

Traumatic Chiasmal Syndrome の 1 例

池田 耕一 継 仁 土持 廣仁
福島 武雄

福岡大学脳神経外科

要旨：前頭蓋底骨折に伴う視交叉症候群の稀な症例を経験した。症例は57歳男性で仕事中に 1t の鉄柱が前頭部に落下し受傷した。CT スキャンで蝶形骨平板よりトルコ鞍にかけて骨折があり、外傷性クモ膜下出血、気脳症、脳挫傷を伴っていた。保存的治療を受けたが腎機能低下が出現し乏尿となったため crush syndrome に伴う急性腎不全が疑われ、当院紹介となった。入院後、連日人工透析を行い、腎機能は改善し意識状態も清明となった。この頃より両耳側半盲を訴えたために MRI 施行した。T1 強調画像にて optic chiasm に脳実質より低信号、T2 強調画像にて高信号の所見があり、外傷性視交叉損傷と診断し、これが責任病巣と考えた。発生機序として頭蓋底骨折による直接的な障害、shear injury、それに伴う prechiasmal plexus の循環障害が考えられた。

キーワード：外傷性視交叉差症候群、両耳側半盲、MRI